

協議会の狙いについて

1. 協議会の狙いについて

1. 協議会の狙いについて

現状

- 各企業がCN(カーボンニュートラル)への取組を進めていく必要がある中で、CNの技術は現状、開発段階のものが多い状況である。
- 各企業毎の取り組みでは、事業所立地条件の利点を活かしきれない。
- 各企業は、生産活動を行いながら段階的に転換していくことが必要である。
- エネルギーキャリアは輸入に依存しなければならない。

CNへの取組についての基本的な考え方

- CNへの転換に際し、港という立地特性を活かし、**臨海部に立地する企業間で連携し、規模による経済効果**を得ることが可能である。
- **複数の企業が利用する港湾施設**については、**公共施設としての整備が可能**となり、効率的にCNへの転換に取り組むことができる。また、既存ストックの転用の可能性もある。
- CNへの転換を進めていくためには、実証実験や施設整備等に関して、**補助制度を活用することが有効**である。

企業間が連携し、規模による経済効果(スケールメリットによる調達単価の低減等)



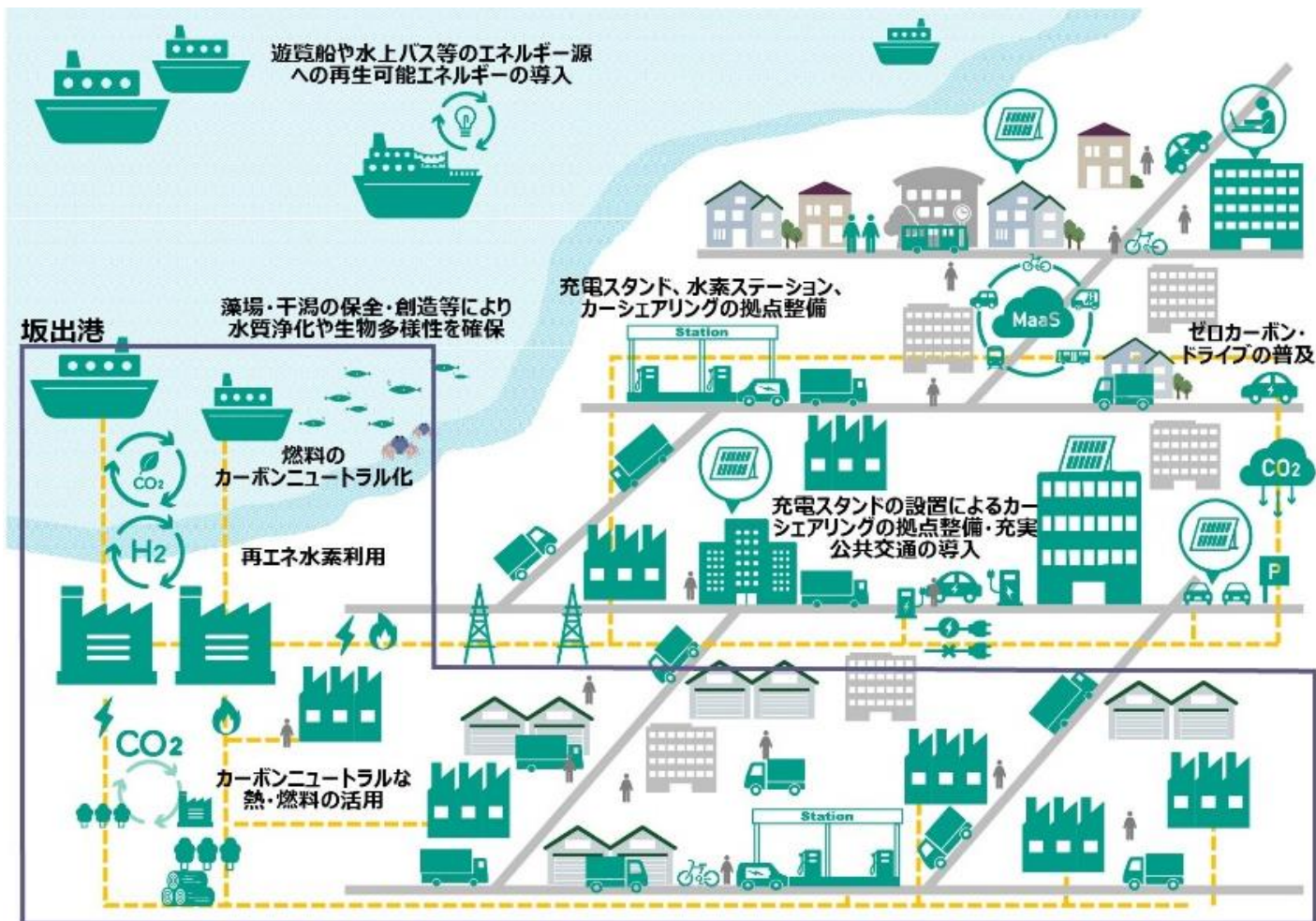
例)水素等の受入拠点の整備

複数企業が利用する港湾施設は公共施設として整備が可能



例)受入・施設の高度化に対応した港湾整備

- 坂出港に立地する企業が主体となり、CNP形成計画の策定を通じて、民間同士の連携や官民の連携などを具体化することにより、**港全体として、CNへの転換を加速**する。
- CNに向けた**実証実験の提案**や**民間同士・官民の連携**などの体制づくり。



坂出港を基点としたCNの形成イメージ